

私の一文字「動」

副代表幹事
国際関係委員会 委員長
朝田 照男

丸紅
取締役会長



“動く”ことが経営者には最も重要

会員の方が思いを込めて選んだ「一文字」に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む新企画。第4回にご登場いただいたのは、朝田照男副代表幹事です。

朝田 私は「動」という文字を選びました。私の信念は、「行動することが経営者にとって一番重要」だからです。経営者の使命は常に持続的な成長を遂げながら企業価値を高め、そしてその結果として社会貢献につなげていくことです。これは「経営者がただ社長室にいて部下の報告を受けているだけでは、会社は成長しない」との信念から来ているものです。

岡西 朝田さんの座右の銘は、臨済宗中興の祖である白隠慧鶴の「えかく動中の工夫は静中に勝ること百千億倍」と伺いました。動の漢字の成り立ちは、「人が立っている」象形と「重い袋の両端を括った」象形、そして「力強い腕」の象形から、人が重い袋を動かすことを意味しています。この書を書くにあたって、そんな力強さに思いを込めました。

朝田 今の世の中、時代の流れは極めて早く、最近は特に、従来想定していなかったようなことが日々起こっています。経営者が絶対に守るべきことは、判断をブレさせないこと。そして、判断して決断したら速やかに行動に移すことが私の信条です。ブレない判断や決断とは、自らが動いて自分の目で見て、現場にいる方々の話をじかに聞いて初めて可能となるものです。社長時代に自分が誇れることは、最も数多くの社内外の現場の方々にお会いしたことだと思います。

岡西 おっしゃるように、最善を見極める決断力は、常日頃から養っていく必要があると思います。朝田さんが、「行動する」ことが大切と思われるようになったのは、いつごろでしょうか？

朝田 私自身が感じていることですが、私の場合、

年を追っていくごとに積極的、能動的になってきているということです。行動することの大切さを感じたのは、今から27年前くらいに日本のバブルが弾け、その後もアジア通貨危機があり、ITバブルが弾け、会社が極めて厳しい状況になったころです。そのとき、どの部署もみんな、内にもったんです。例えば、稼ぎ頭だった営業部隊がお客さまのところへ行かなくなった。お客さまのところへ行かなければ、お客さまがこちらへ来るわけがありません。当時、私のバックグラウンドだった財務部も金融機関に出向かず、電話で済ませるようになっていました。

そんな状態のときに私は役員兼財務部長を拝命しました。すぐにやったことは、ともかく朝一番から出勤し、ありとあらゆるお客さまのところへ出かけていくことでした。格付け機関が弊社の格付けを数段階落としたときも、すぐに取引先に行き、フェイストゥフェイスでどう立て直すかを説明し、信用を得ることができました。それが100%正しいとはいえませんが、私の会社人生の中では効果があったと思っています。

今はまさにデジタルイノベーションの世界じゃないですか。デジタル革命、第4次産業革命、デジタルトランスフォーメーションということが言われます。でも、最後に商売を決めるのは「人の力」です。お客さまがどこと一緒にプロジェクトを進めようかと悩んでいるときに、きちんと対面して相手の共感を得ることができるような話ができるか。やはり自ら動いて、じかにお会いして話をし、心が通じ合うことが何より大切だと思うんですよ。



書家

岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。現代アート『青曲—そして始まりとしての紅畝』を展開。